

<p><b>1 学校教育目標</b> 『北茂安中学校生徒としての誇りをもち、自信と意欲をもって、たくましく生きる生徒の育成』～「学力向上」と「豊かな心の育成」を目指して～</p> <p><b>2 本年度の重点目標</b> 生徒が目を輝かせながら、学校が楽しい、明日も学校に行きたい、そう思えるような学校づくりをしたい。 そのために I 安全・安心な学校づくり 全職員で危機管理の徹底といじめのない学校づくりに力を入れる。 II 生徒が輝く、明るい学校づくり 生徒が輝くためには、やはり勉強が分かるとともに、将来の目標を持たせる必要がある。そこで、全職員をあげて学力向上に努めるとともに、キャリア教育に取り組む。また、生徒がより一層輝くために、生徒の出番と承認の場を数多く作り、生徒のやる気を引き出すような生徒会活動のさらなる活性化に取り組む。 III 道徳教育や心の教育といった、教育における不易の部分大切にするとともに、ICT活用教育やグローバル化に対応した教育など、時代の要請に応える教育にも積極的に取り組む。 IV 保護者の願いを知り、地域と共に地域に根ざした教育を進める。これからますますグローバル化が進む時代に、ふるさとを愛し、また自分の母校を誇りに思うような生徒を数多く育てるため、地域連携教育に積極的に取り組み、地域と共に学校づくりに取り組んでいく。</p>
--

達成  
A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

① 活用力向上を図るため「協働学習」や「ICT」取り入れた授業実践により、学力の向上をめざす。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校経営	○ 教職員の授業力向上	・ 校内研究や授業研究会の実施 ・ みやき町教育委員会指定事業「北茂安校区小中連携及び合同事業」に係る日々の授業実践	・ 毎時間、活用力を伸ばす授業実践を行う。 ・ 生徒の学びの姿に着目した授業研究会を年複数回実施する。 ・ 9カ年を見通して、小中連携を図る。	・ 北茂安の授業モデルに沿った授業実践の実施。 ・ 校内研究を核に生徒の学びの姿に着目して、全職員1回以上の公開授業・授業研究会を実施する。 ・ 生活・環境部、授業研究部、道徳研究部の三部会に分けて、小中で共通実践を図る。	B	・ 県の学習状況調査の活用に関する問題の平均正答率において4月調査よりも伸びが見られた。 ・ 県の学習状況調査において、どの教科も県の平均と同等か上回る事ができた。 ・ 主体的に学びに向かい、思考する生徒が多くなった。	・ 県の学習状況調査で正答率が悪かった問題を抽出し、教材化を図る。 ・ 単元を見通した授業計画や授業実践を行えるような研究を深めて行く。 ・ 小中で拡大推進委員会を月に一回程度行い、共通実践を図る。
教育活動	● 学力向上	・ 確かな学力の定着を図る学習指導 ・ 活用力の育成を図る指導方法改善 ・ 少人数・TT授業の推進	・ 全国・県学習状況調査において県平均を上回る。 ・ 生徒の家庭学習の習慣化と改善を図る。 ・ 発達段階と個性に対応した指導をする。	・ 少人数授業やTT授業により、基礎・基本の充実を図る。 ・ 基礎・基本の習得と同時に活用力を伸ばすために、指導方法の改善を図る。 ・ 家庭学習について、課題の出し方など工夫改善を図る。 ・ 放課後や長期休業中を活用し、放課後等補習学習事業を活用し個別の学習指導を行う。	B	・ 学習状況調査の数学では、1年2年ともに見方や考え方の観点で県平均を上回っている。しかし、無解答も多く学力の二極化がある。英語では、1年2年とも3観点すべてにおいて、県平均を大きく上回っている。他教科も県と同等またはそれ以上の結果である。 ・ 少人数授業やTT授業の実施により、先生と生徒の距離感が近くなり、深めあいや高めあいができつつある。しかし、自ら学ぼうとする意欲は物足りなく感じる。 ・ 生徒の家庭学習の習慣化はまだ不十分である。 ・ 特に3年生は、放課後の学習会で個別の学習指導ができた。	・ 支援が必要な生徒について、教科部会や学年会で確認し、どのような支援や指導を行うか十分に検討する。 ・ 小学校と連携を図り小学6年生の春休みの課題を出す。その際、学習状況調査の結果を活用する。 ・ キャリア教育を一層充実させることで、学習への意欲と将来への青写真をイメージさせる。 ・ 学習状況調査の結果を受けて、今後も弱いところを授業で取り扱う。また、活用力を問う問題を定期テストに出題していく。 ・ 家庭学習については、学年と教科のバランスを考慮して負担になりすぎないようにする。
教育活動	● ICT活用教育の推進	・ 積極的なICTの利活用	・ ICT機器(電子黒板・タブレット・ぼうけんくん)をツールとして積極的に活用して分かりやすい授業を図る。 ・ デジタル教科書の活用を積極的に活用し、指導力を向上させるとともに学力向上を図る。 ・ ICT機器(電子黒板・タブレット・ぼうけんくん)に関する校内研修を長期休業中、実施し職員のスキルアップを図る。	・ ICT機器を積極的に授業に活用して授業の効率化を図る。 ・ ICT機器(電子黒板・タブレット・ぼうけんくん)の利活用をICT支援員と、ともに活用計画表を作り授業で活用する。 ・ デジタル教科書の研修や情報交換を行う。 ・ 長期休業中の校内研修会でICT推進リーダーまたは、講師を招いての研修を行い、教職員全員がICT機器を授業で生かせるようにする。 ・ 校内外の研修に積極的に参加し、学んだ技術や情報、知識を全教職員に提供する。	B	・ ICT機器(電子黒板・タブレット)を使って、各教科で単元に応じて、授業を行なうことができた。さらに日本社会で問題になっている情報モラルの領域でラインやSNSでの問題点を共有して考え授業を行なうことができた。 ・ 教育委員会対象セミナーのIT機器の活用と管理研修会に参加し、最新の情報機器の展示と活用の仕方等を学び、習得のための研修をしていかなければならぬと思った。さらに、授業でのICTの役割の講演を聴くことができ、授業で生かしていきたいと思った。	・ ICT支援員をさらに活用し、TTとして、授業でICT教育をさらに進めていくことが課題である。 ・ ICT教育関係等の研修会で研修内容を校内研修会等で全教職員に伝え知識と理解を深めていく手立てをとる。 ・ 技術・家庭科での情報領域のなかでなく、他の教科の授業やクラスで機会を設けて、情報モラルに対しての正しい判断を身につけるための意識を持たせることが必要である。

② 道徳教育の充実を図るため「ふれあい道徳」の実践により、道徳の向上をめざす。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○ 生徒指導の充実	・ きめ細かな生徒指導の推進 ・ 特別支援教育の充実 ・ 自己肯定感を育てる学級づくり	・ 全職員で生徒指導に関する情報の共有化をとおして、生徒理解・共通実践の徹底を図る。 ・ 不登校及び不登校傾向にある生徒数の減少を図る。 ・ お互いを尊重し合い、高め合う集団づくりを図る。 ・ 学習障害や発達面の課題をもつ生徒への指導体制の充実を図る。 ・ SCを交えた小中連携会議を年3回行う。	・ 生徒指導部を核にして、全職員で対応する指導体制を構築する。 ・ 保護者との連携を密にし計画的、組織的な支援を行う。 ・ 教育相談主任を中心に、SCや町SSWとの連携を積極的に進め、月2回の教育相談部会(不登校対策連絡会)を実施する。 ・ Q-Uを活用し、お互いを認め合い、尊重し合う集団づくりを行う。 ・ 積極的に特別支援学校からの巡回相談を要請し、必要な支援の指導を受ける。また、それを受けた指導を行う。 ・ 出番、役割、承認の場を設けて生徒同士でお互いを尊重し、高め合える集団づくりを行う。 ・ 特別支援教育に関する研修を実施し、理解と指導力向上を図る。	B	・ 生徒指導主事と各学年生徒指導担当が連携して諸問題に対応することができた。 ・ 保護者と連絡を密にとり、生徒の指導をおこなうことができた。 ・ 教育相談担当がSCと連携して生徒や保護者にはたらきかけることができた。 ・ 特別支援コーディネーターを中心に、支援が必要な生徒に対応することができた。 ・ 開発的生徒指導を心がけ、生徒ひとりひとりに出番を与えることができた。 ・ 発達障害をもつ生徒や発達障害が疑われる生徒に対する対応について今後研修を深める必要がある。	・ 生徒指導に関しての研修会をおこない、開発的生徒指導について理解を深めることが必要である。 ・ Q-Uの活用が不十分であるため、結果を受けて取り組むエンカウンターなどの研修をもっと取り入れる。
教育活動	● 心の教育	・ 道徳教育の充実 ・ ふれあい道徳の実施 ・ 体験活動の充実	・ 道徳の時間の充実を図るため、年間計画に沿って実施する。 ・ 「ふれあい道徳」授業を第3回みやき町教育の日に開催する。 ・ 授業化へ向けて、教師間で指導方針の共通理解をはかる。	・ 道徳教育推進教師を中心に教材を選定し、年間計画に沿って授業を行うことで生徒の心の充実を図る。 ・ 「ふれあい道徳」で道徳授業への理解を深めてもらい、授業を広く保護者・地域の方々に広報して、家庭・地域での教育力の向上につなげる。 ・ 全体計画や年間計画のもと、道徳の授業で、特別の教科道徳の内容項目をすべて満たすことができるようにする。 ・ 教員間で共有できるフォルダに道徳の実践資料を集める。	B	・ 年間計画のもと、学年で同じ教材を使用した道徳の授業が実施できた。 ・ 「ふれあい道徳」を実施し、全学級で発達段階に応じた道徳の授業を行うことができた。 ・ 「特別の教科 道徳」の実施に向けて、会議や研修会等を通して、職員間の共通理解ができていく。 ・ 来年度も授業実践しながら、年間計画の再検討を行い、教科化への準備をする必要がある。	・ 年度中に年間計画の再検討を行い、次年度も年間計画にそって授業を進めることができるよう提案していく。 ・ 学年で統一教材を使用したり、輪番道徳にしたりして、効率化をはかる。 ・ 道徳の授業で使用した教材を共有するために、データの共有フォルダを作成する。 ・ 「特別の教科 道徳」のポイントについて、会議等で定期的に職員間の共通理解をはかる。
		・ 人権教育の充実 ・ 体験活動の充実	・ 人権放送、人権集会などをとおして、人権についての理解を深める機会をつくる。 ・ 各学年ごとに校外での体験学習の機会をつくる。	・ 人権尊重の心を育てるため、人権標語や人権作文の機会を年間行事で計画的に実施し、意識と実践する力を向上させる。 ・ 職場体験、ボランティア活動をおとし、思いやりの心の育成を図る。	B	・ 人権標語作成や人権作文を書く時間を全校で設け、人権について考えることにより、人権意識が向上してきた。 ・ 人権週間では、生徒会を中心に人権標語や人権作文の掲示、人権集会の開催と、全校生徒で人権について考え、理解を深める時間を作ることができた。 ・ 鹿児島修学旅行、福岡自主研修、宿泊訓練、職場体験などの校外行事で多くの人とふれあい、思いやりをもった言動が大切であることを学んだ。 ・ 学校生活の中で、相手を思いやることに欠けた軽はずみな言動が見られるので、慣れ親しんだ相手にも思いやりがもてるようにしていくことが必要である。	・ 人権標語や人権作文を書く時間を計画し、実施する。 ・ 人権週間の取り組みを生徒会と連携して行うために、準備の時間を十分に取る。 ・ 職場体験、ボランティア活動はキャリア教育や情操教育の一環として継続して行う。 ・ 軽はずみな言動で相手を傷つけることがなくなるように、生徒と十分にコミュニケーションをとって、授業だけでなく学校生活全体を通して、思いやりの心を育成していく。
		・ 読書活動の推進	・ 豊かな心を思いやりの心を養い、広い視野に立って考える力を育成する。 ・ 読書の喜びを味わわせるとともに、図書に親しむ態度を育てる。	・ 豊かな心や思いやりの心を育てるために、朝読書や金曜日の「あのねの会」読み語りを実施し、色々な本に触れる機会作りに努める。 ・ 委員会活動の活性化を図り、図書館の利活用を高め、想像力を育み語彙力を高める活動を定期的に仕組む。	B	・ 朝読書や金曜日の「あのねの会」読み語りを実施できた。教師の感想や生徒の学活ノートから、読書の楽しさが感じられた。 ・ 学習文化委員会を中心に、図書館の利活用を高めるために、図書館祭りやおりコンクール、教科での制作物の展示など、図書司書補と連携して行うことができた。	・ 朝読書や金曜日の「あのねの会」読み語りを継続し、特に朝読書の本選にも力を入れ、国語科と連携して行い、質の向上を目指す。 ・ 個人や学年間で、図書館の活用に偏りが見られるので、図書司書補と連携して、各教科の授業での活用を推進していく。



教育活動	●いじめ問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修でのスキルアップ</li> <li>教育活動の全領域での取り組みの充実</li> <li>人権意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期教育相談や定期的なアンケートの実施で未然防止や早期発見、早期解決を図る。</li> <li>計画的に職員研修を実施し、職員の能力向上を図る。</li> <li>協働学習の充実及び生徒主体の活動を設け、支持的風土の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部や生徒指導協議会などで情報の共有を図り、毎週の生活アンケートや学活ノートを活用し未然防止及び早期発見、早期解決に努める。</li> <li>SCやSSWなどの支援を受けた職員研修をとおり、教育相談の充実、学級・教科経営の向上を図る。</li> <li>学校行事や生徒会活動を、より生徒主体で計画運営し、支持的風土の育成を図り、生徒自らいじめ撲滅への取り組みができるようにする。</li> <li>外部機関との連携を図ることで、地域や保護者との信頼関係を高めるようにする。</li> <li>にじいるCAPの研修を保護者・生徒・職員が受け、お互いを認め得る関係を築けるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>諸問題に関しては、朝の職員朝会で全職員に連絡をおこなうことができた。</li> <li>また未然防止の観点から生活アンケートをとることができた。</li> <li>夏季休業中にSCによる研修をおこない、生徒に対する考えや対応方法を知ることができた。</li> <li>人権集会を生徒会中心で運営し、生徒自ら人権に対して考えることができていた。</li> <li>児童相談所や町子ども未来課と連携して、家庭の支援と生徒の支援をおこなうことができた。</li> <li>にじいるCAPの研修を受け、円滑な対人関係を結んだり、人間関係の問題点を考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活アンケートの内容の再考をおこない、効果的に利用できるようにする。</li> <li>今後も外部の講師の活用した学習会をおこなったり、外部機関との連携をはかたりすることで、広い視野をもって問題の対応に当たることができるようにする。</li> <li>いじめの未然防止に取り組むため、学級を基本集団と考え、学級の中での人間関係の改善のため、ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターを用いたが球活動に取り組む。</li> </ul>
------	------------	--	--	--	---	---	--

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○小中連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>中1ギャップや不登校の解消</li> <li>小中の生徒指導の連携</li> <li>小中の学力向上の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期教育相談や定期的なアンケートの実施で未然防止や早期発見、早期解決を図る。</li> <li>計画的に職員研修を実施し、職員の能力向上を図る。</li> <li>協働学習の充実及び生徒主体の活動を設け、支持的風土の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修等とおして、小中の9年間の連続した指導体制を築くようにする。</li> <li>児童生徒間交流を計画的に行い、中1ギャップ解消を図る。</li> <li>小中の職員の交流や研修をとおり、効果的な指導ができるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区共通の研究テーマを掲げて小中連携を行うことができた。</li> <li>連携に係る小中合同の全員研修会を実施した。</li> <li>月1回の校区研究推進委員会を実施した。</li> <li>3月と5月に旧6年担任と中1担任を中心とした情報交換を行い、中学1年生の学校生活の充実を図った。</li> <li>セクハラ防止研修、特別支援教育研修、人権・同和教育研修、教育相談研修を校区合同で行うことができた。</li> <li>年間を通じた計画的な授業交流を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区研究推進委員会と拡大研究推進委員会での協議内容を見直しを持ったものにする。</li> <li>部会での実践をさらに広げ、深める。</li> <li>校内授業研究会や授業参観を相互に参観して、それぞれの校種野の理解を深める。</li> <li>今後も校区で同一講師の研修会を受けて、共通の課題意識や考え方を持つ。</li> <li>小中の人的な交流をさらに進める。</li> </ul>
学校経営	○開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの情報発信の推進</li> <li>家庭・地域社会との連携の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校便りを10日に1回発行する。</li> <li>HPを月4回以上は更新する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒間交流を計画的に行い、中1ギャップ解消を図る。</li> <li>小中の職員の交流や研修をとおり、効果的な指導ができるようにする。</li> <li>職員研修等とおして、小中の9年間の連続した指導体制を築くようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりや学年・学級通信を通し、家庭や地域への情報発信を行った。</li> <li>ホームページの更新回数を増やし、行事等の案内を家庭・地域へ発信した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新を増やす。</li> <li>民生児童委員会や地区懇談会など地域との各種会合の際に授業参観や町教育の日の実施などについて出席率を向上させる。また、ホームページの存在やホームページ上の学校だよりなどについても紹介をして認知度を上げる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域教育材(人・物・事)の4回以上の活用を図る。</li> <li>授業参観や教育講演会を6回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間の「焼き物」「職場体験」「進路学習」などに係って、地域の方に指導をしていただく。</li> <li>保護者や学校評議員、民生委員等に授業参観の案内して出席を呼びかける。</li> <li>課業日の授業参観を年2回、土曜開校「みやき町教育の日」を年3回、教育講演会1回の実施をする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区懇談会では、SNSに関する資料などを準備して、積極的に学校の現状を伝えた。</li> <li>青少年育成指導委員会や民生児童委員会での校長からの報告を行った。</li> <li>PTAと協力し、各種行事を開催することができた。</li> <li>緊急配信メールで学校の教育活動についても情報発信を行った。</li> <li>授業参観を定期的に行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ案内とホームページ内の学校だよりについて認知度を上げる。</li> <li>ホームページの内容を充実させるため、活動の様子や作品、情報の提供ができるように情報を共有フォルダに集約する。</li> <li>授業参観や町教育の日の実施について、青少年育成指導委員会や民生児童委員方々への案内、地区懇談会での知らせを行い出席率を向上させる。</li> <li>緊急配信メールの登録を、次年度も100%に達するようにする。</li> </ul>

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動習慣の改善や定着化</li> <li>望ましい食習慣の定着と健康・体力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動に触れる機会をできるだけ多くもつ。</li> <li>食育を通して健康な体づくりを図り、朝食摂取率を100%とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や保健体育の授業、生徒会活動と連携することで、運動の楽しさを体験させ、生徒自ら体力の向上をめざすようにする。</li> <li>給食指導と食育指導を充実させ、生徒への食事の大切さを意識させる。</li> <li>朝食の大切さについて、具体的資料を用いて指導するとともに、PTA活動とも連携して、朝食の有用性をたよりで知らせたり、研修会を実施したりして保護者へ啓発を図る。</li> <li>職員研修を通して、職員の意識を向上させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昼休みにグラウンドを開放し、球技や体づくり運動をする生徒の姿が見られた。しかし、特定の生徒のみの活動となっていた。</li> <li>生徒会活動と連携した球技クラスマッチや、シャトルラン記録会を定期的に開催できた。</li> <li>給食週間に行った生徒会活動の放送集会を通じて、給食や食べ物の大切さを意識させることができた。</li> <li>朝食の大切さについて、みやき町食生活アンケートの結果をもとに保健だよりを作成し、生徒や保護者に啓発することができた。</li> <li>健康や体力について生徒が自発的に行動したり、考えたりできるような活動を取り入れていく必要があると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や体育の授業だけでなく、普段の生活に運動を取り入れられるようにする。気軽に取り組める運動を体育の授業や便り、掲示物を通して紹介する。</li> <li>食事の大切さについて意識を高められるように、栄養教諭と連携し、定期的に情報を伝えていく。</li> <li>学校保健委員会を活用し、学校三師や保護者、地域と連携し、効果的な指導を行う。</li> </ul>

4 本年度のまとめ・次年度の取組

みやき町から小中連携の研究指定委嘱を受けて①教師間、②教師と児童生徒間、③児童と生徒間における「つながり」が持てるようになった。小学校と中学校の合同研修会を通して、小中の教職員が顔を合わせて互いの考えに触れる機会が増えて心的距離感が縮まった。また同じ講師の話と同じ空間で聴くことで目指すことも共通になり共に取り組んでいく雰囲気が出てきた。小中相互の授業参観もでき、どのような学びをしているのかを互いに知ることができた。さらに、授業体験や部活動体験、中学3年生の学年合唱披露、中学生の作品展示、中学生の人権標語紹介などを実施したことで、小学生が中学生を身近に感じることで励みや憧れを持たせることができた。

主体的・対話的な学びを求めて授業研究を行った。講師の達富洋二先生にご指導いただいた「A指導事項、B思考操作、C言語活動」による学習課題の設定は、単元づくりに非常に有効であり具体的な共通の実践となった。授業者一人一人が、単元を通して身に付けたい力を明確にし、そのためにふさわしい単元を貫く言語活動を工夫しながら、単元づくりに取り組んでいるところである。

不登校生徒や不登校傾向の生徒について生徒指導部や教育相談部会、SSW・SCの参加による拡大教育相談部会を月1回程度開催して個別の具体的な支援策などを協議した。そして、専門的な立場からのアドバイスをもとに生徒に対応することができ効果があげることができた。今後も各機関との連携を図りながら生徒の状況に応じた対応を行いたい。

学校の教育活動の全領域で支持的風土や自己有用感、自己肯定感の育成を図ることで、個々の成長と良好な関係を築ける生徒が増えた。また、開発的生徒指導の実践・充実にも重点をおいて取り組んでいくことも必要と考える。

校区合同による研修会を昨年度と同様に実施した。授業研究に係る研修、ハラスメント防止研修、メンタルヘルズ研修、教育相談研修、救急救命及びAED講習で実施することができた。校区で同一講師の研修会を受けることで、共通の課題意識や考え方を持つことは有意義なことと考える。

小学6年生とその保護者への中学校説明会を8月の体験を中心とした日と10月の説明を中心とした日に分けて2日の実施をした。時間的な余裕もでき、中学校のアピールができた。さらに魅力ある内容できるように工夫をしていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目